



なすびの花

発行者：検査課
掲示期限：令和3年4月30日(金)
掲示許可：総務課

工場パトロールより

3月4月は、先月お知らせしておりました通り、自然災害をテーマにした工場パトロールを実施しております。

阪神淡路大震災から26年、東日本大震災から10年という年月が過ぎました。

2018年の西日本豪雨、そして同じ年の台風21号の折には、数日間の停電があり、我が社の業務にも大きく影響しました。

そしてごく最近でも、頻繁に日本のあちこちで大きめの地震が起こっています。

小学校などの地震を想定した避難訓練では、まず子供たちの行動として、机の下に身を隠す、といった教育を受けます。

さて、職場や家庭ではどうでしょうか。

先日『災害が起こった時にどうするか』といった内容のテレビ番組がありました。

大きな地震が起こった時、まず最初の行動としては、物が落ちたり、飛んできたりする可能性の低い、廊下に出ることが推奨されています。

大きな地震が来た時には、揺れが治まるまでは、物が置かれていない空間にすぐに移動し、揺れが治まってから行動しましょう。

3月は、本社工場のパトロールを実施いたしました。

背の高い棚が壁伝いにいくつか設置されているのが気になりました。

地震に備えるためには、棚を低くしたり、重量物はできるだけ棚の下の方に配置し、人の上に物が飛んできたり落ちてくることのないような配置を考えなくてはなりません。

今後各部署の状況や導線を配慮しながら、少しずつでも地震・災害対策の目線での改善に取り組む必要があります。

また継続して経過を観察して参ります。

今回のパトロールでは、コロナ禍で、人が集まる避難訓練が、なかなか実施できないことを踏まえ、避難訓練に置き換えることができる方法を検討することになりました。

また、災害時に、建物内に取り残された人がいないことを確認する有効な手段なども、考えているところです。

これからの季節は、雨や風による災害の可能性が高まります。

会社の建物や周辺、設備などを見て、未然防止の観点から、異常や危険に感じたことは、所属長や、総務課にお知らせください。

災害が起こった際に、早め早めに対応できるように、こまめに情報を取得し、また、各部署でも避難経路や役割分担、所属長が不在の際の手順や初期行動の確認をしておきましょう。

眼力トレーニング

製品の外観目視検査のためのトレーニングになるということで、検査課では3年くらい前から、毎朝の会と同時に5分間、ランダムに並んだ数字を0から順番に探すトレーニングを行っています。

実際に目視検査の精度が上がったというデータのあるものなのですが、私たちは、普段の製品の外観目視検査において、精度が上がったという実感はそれほど感じることはありませんでした。

検査課では、実装基板の受入検査も日々行っています。

実装基板の大きなものは、大量の部品が実装されていて、部品表を確認し、基板上の部品を探し、部品の実装の向きやハンダの状態を確認するのに、なかなかの長時間を費やしてしまいます。

この大量の部品が実装された大きな基板は、時々入庫するのですが、この眼力トレーニングをするようになってから、部品を探すのが、とても楽になっていきます。

半分の時間でできるとまでは言いませんが、トレーニング前より、25%くらいの時間短縮となっています。

この眼力トレーニングは、視覚機能の訓練になり、総合的な眼力を向上させます。

目視検査をされる方や、特に基板部品のハンダ付けをされる方におすすめのトレーニングです。

ぜひ日々取り入れてみてはいかがでしょうか。